

### 5-3 社団法人化10周年記念事業の準備

本協会は、昭和52年11月に私立大学の3団体である社団法人日本私立大学連盟、私立大学協会、私立大学懇和会が母体となり、早稲田大学総長の清水司先生を代表に私立大学等情報処理連絡協議会として発足し、私立大学連盟に事務局を設けて昭和63年3月31日まで会の運営全般を委託した。同年4月1日、現在の事務局に居を構えることになり、平成4年6月1日に当時の鳩山文部大臣の下で、社団法人私立大学情報教育協会を文部省として設立、本年度10年を迎えることになり、任意団体から25年の歳月が経過することになる。そこで、これを記念するため本年の5月31日の総会の後に記念式典と披露宴を開催することにした。

四谷のホテルニューオオタニで総会を13:30~15:00、式典を15:20~16:20、披露宴を16:30~18:00で進める。

式典の次第は、開会の辞、式辞、来賓祝辞と続き、その後、本協会の運営に功績顕著な方々を功労者として表彰することにした。なお、来賓の祝辞は、文部科学省（青山副大臣）、衆議院文部科学委員会（河村委員長）、私立大学団体連合会（奥島会長）、国立大学協会（長尾会長）、ビデオ紹介によるスタンフォード大学筆頭副学長とした。

披露宴は、開会挨拶、国会議員挨拶、乾杯、鏡割りの後、サイバー・キャンパス・コンソーシアム事業、電子著作物権利処理事業の紹介と、IT活用教育の現状として、加盟大学の内、6大学程度に協力願い、ビデオ紹介を行うことにした。

功労者の表彰は、本協会および協会前身の任意団体において、会の設立・発展に特に功績のあった方を特別功労者とし、また、事業の運営に大きく貢献された方を100名程度選出し、表彰することにした。

特別功労者の基準としては、本協会および協会前身の任意団体において、会の設立・発展に顕著な功績のあった方3名とした。功労者の基準は、本協会および協会前身の任意団体において、事業遂行に大きく貢献された方とし、役員は2期以上（在職4年以上）、委員は委員在職が通算（兼務加算）6年以上とし、業績顕著な方とした。